

# 日南小新聞

## 学校概要



【学校名】日南町立日南小学校  
【所在地】日野郡日南町生山450番地2  
【校長名】三上恵子  
【児童数】106人  
【学校教育目標】  
「ふるさとに学び、夢に向かい、生き生き輝く子どもの育成」

## めざす児童像

・学び続ける力：わかる喜びを感じ、自ら学びに向かう子  
・かわりあう力：自分も友だちも大切に、進んで関わる子  
・ふるさとを愛する力：ふるさと日南町を知り、ふるさと日南町から学ぶ子

## 沿革

2009(平成21)年度 町内六つの小学校が統合され「日南町立日南小学校」となった。日南町は、林業、農業が盛んな地域である。22(令和4)年1月から、「コミュニティ・スクール」となり、地域の方との結びつきが一層強くなった。「ふるさと学習(日南学)」を通して、地域のよきを知り、好きになり、「日南を誇りに思う子ども」を育てている。同年度から「非認知能力の育成」の研究に取り組んでいる。



## 一つ一つ手作業で

小さな実を守り赤く色づくため



② 袋かけ

6月17日に、1年生と5年生の40人は、りんごの袋かけを行った。林さんから袋かけの仕方を教わった後、子どもたちは、りんごの実を落とさないように気を付けながら、小さな実を袋の中央に入れて、ワイヤで袋の口元をしっかり閉めていった。

林さんは、「袋かけをすることで、病気や害虫からりんごを守っている。また、りんごの色つきがよくなるので、赤くきれいなりんごになる」と、袋かけの必要性について話された。

りんごの袋かけは、一つ一つ手作業で行うため、1年生には難しい作業だったが、5



一つ一つ手作業で行ったりんごの袋かけ



③ シール貼り

## 世界に一つのオリジナルに

9月3日に、1年生と5年生は、りんごにシールを貼る作業を行った。この体験は、

まだ色づいてない段階のりんごに自分がかいた絵柄のシールを貼ると、赤く色づいたときにシールをはがすと、絵柄が白く浮き出て、世界に一つだけのオリジナルりんごになるというものだ。

1年生と5年生は、りんごに自分でかいた絵柄のシールを貼ると、赤く色づいたときにシールをはがすと、絵柄が白く浮き出て、世界に一つだけのオリジナルりんごになるというものだ。



りんごのシール貼りを体験



りんごの収穫にチャレンジ



④ 収穫

## とれたてを丸かじり!

9月19日に、1年生と5年生はりんごの収穫を行った。林さんから、収穫の仕方を教わった子どもたちは、自分の描いたシールが貼ってあるりんごを探し、りんごをつかんで持ち上げるように丁寧に収穫した。シールをはがして、絵柄が白く浮き出ているのを確認すると、世界に一つだけのオリジナルりんごに喜んで

1年生のときにシール貼りに貼れた」とうれしそうに話していた。りんごの収穫のときにシールをはがすことを子どもたちは楽しみにしていた。「にちゃんマークが、きれいなりんごに貼れた」とうれしそうに話していた。

りんごは見た目太陽中は月りんごの味みずみずしくておいしいな(遠沢亮太)シャリシャリとあまく大きいりんごだよ(上田結菜)

林さんからシールを貼っていないりんごも収穫させてもらい、その場でりんごを丸かじりした。5年生の西村連音さんは、「甘くてみずみずしい」と喜んでいて、りんご園を運営されている林さんは、収穫するときの思いを「いいのができたなあ」と思いながら収穫をしている。傷んで廃棄しなければいけないりんごには、ごめんねと伝えながら収穫している。大切に育った実をありがたく思っている」と話された。

りんごを食べさわやかな風にとま(木山汰祐)りんごを見つからず来よう夕日かな(小竹和)シャリシャリとあまいりんご丸かじり(小谷美夢)シールはりんごの顔が楽しそう(後藤藍音)シャリシャリとりんごを食べるいい音だ(後藤藍音)りんごがシャリシャリいい音笑顔だな(小林愛菜)つがるりんご見れば見るほど夕日かな(嶋川晴晴)真っ赤だな夕日のようなつがるりんご(清水快斗)つがるりんごかじってみればお月様(坪倉一平)シャリシャリとかじるりんごは満月のよう(中村音陽)りんご食べ口に広がるみつの味(西村隆志)真っ赤だな太陽みたいなりんごだね(西村連音)りんごがりとこら食べてもおいしいよ(原大智)つやつやとかがやりんごおいしいな(原万莉香)りんごがりと夕日みたいに真っ赤だな(古垣内琥珀)林さん大切にしたりんごだよ(三島悠寿)シャリシャリとりんごの音が聞こえるよ(三森蔵万)りんごはね夕日のようにまん丸だ(渡辺結月)



① 栽培1年間

## おいしく作る工夫は?

### 林りんご園代表に聞く

林りんご園は、標高650mの高原地帯にある。1983(昭和58)年に鳥取県の補助事業として、元々大きな山だった場所にりんごの木を植え、りんご園を造られた。林りんご園では、つがるジョナゴールド、王林、ふじの4種類のりんごを栽培されている。

林りんご園代表の林富美代さんは、「4月にりんごの花が咲き、虫が飛んできて、自然受粉で実がつく。摘果をして、品質のよいりんごができるようにしている」と、りんご栽培の工夫を話された。

また、りんご収穫の時期について、「つがるは9月中旬。今年のように猛暑だと、例年より10日早いので、9月の初めになった」と、今年は気候の影響を受け、収穫の時期が早くなったようだった。

次の年も、おいしいりんごが収穫できるようにと5年生は、10月末にりんごの木の根元に肥料をやり、土づくりの大切さも学んだ。

(片岡逸貴、小谷美夢、後藤誓語、嶋川晴晴、西村隆志、古垣内琥珀、三島悠寿、上田結菜、小竹和、原万莉香、河合馨木、木山汰祐、後藤藍音、渡辺結月)

りんご栽培について学ぶ



5年生が作った新聞です

日南町特産の一つ

# りんごを知ろう

日南小学校の5年生は、総合的な学習の時間に林りんご園(日南町下阿見縁)で、日南町の特産品の一つであるりんごについて、学習を深めた。これは、「日南町の特産品の一つであるりんごをとおして、おいしいりんごを栽培するためにどのような工夫や努力をされているかを知る」という取り組みだ。そこで、私たち5年生は、6月から10月まで、林りんご園でりんご栽培について学んだ。



⑤ 加工品

## 多彩な商品ずらり

酢やジャム、チョコレート



りんごを加工して商品に

日南町の道の駅日野川の郷には、りんごを加工した商品が売られている。このりんごを加工した商品は、旧阿見縁小学校の家庭科室で、阿見縁特産グループ(7人)が作っている。

加工食品の生産量は、りんご酢500本、ジャム600個、りんごソース200個だ。「ふじが長持ちをするため、1月から3月に一気に作る」と加工品を作る工夫を話された。チョコレートは、チョコレートを作る業者で加工されている。

林さんは、「スーパーに行くと、加工食品コーナーを見ながら、どんな新商品を作ろうかなと考える」と新商品の開発について話された。りんごの加工食品を食べた青木志龍さんは、「チョコレートがおいしかった」と笑顔で話していた。加工食品を試食した5年生は、加工されても、りんごの風味がすることを楽しんでいた。(遠沢亮太、遠沢亮太、原大智)